

産業廃棄物処理実態解析調査（2012-2016 年度実績総括）

大石 修 立尾浩一¹⁾ 山田正人²⁾ 遠藤和人²⁾ 石垣智基²⁾

（1：（一財）日本環境衛生センター 2：（国立研究開発法人）国立環境研究所）

1 目的

千葉県内における産業廃棄物の排出・処理・処分の流れを整理・把握することを目的とし、既存の行政報告データ（「産業廃棄物処理業者実績報告書」、「多量排出事業場処理計画実施状況報告書」及び「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」）を活用したシステムの構築作業及び解析を2009年度から実施してきた。

ここでは、2014年から2018年度までの結果（2012-2016年度実績）をとりまとめて報告する。

2 調査方法等

2・1 調査期間

2012年度から2016年度実績（千葉市、船橋市、柏市のデータは2012年度以降のため）

2・2 調査地域

千葉県（千葉市、船橋市、柏市を含む）

2・3 調査方法

システムの構築及び年度ごとの結果については既報^{1)~4)}のとおりであり、調査期間中の推移と傾向をまとめた。システム構成の概略を図1に示す。本システムは報告書データの積み重ねによる実績値のみで結果を算出しており、推計はしていない。一方、千葉県廃棄物処理計画策定に使用した値⁵⁾（以下「県調査値」という）は、排出予測計算による推計であることから、実績値から算出している本システムから得られる値（以下「本システム値」という）との比較を行った。

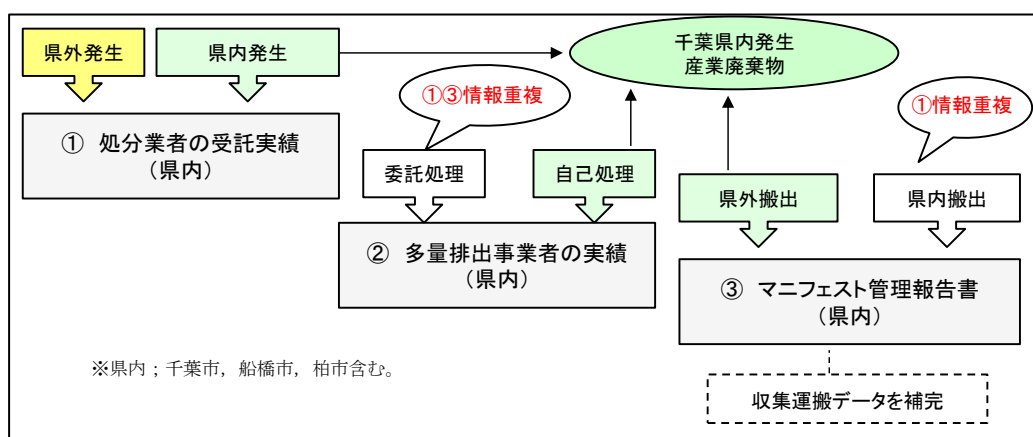


図1 システム構成の概略

3 調査結果

3・1 排出量、処理・処分量の推移等

システム値による産業廃棄物の排出量、処理・処分量（再生利用量と最終処分量）の推移等は以下のとおりであった。

3・1・1 排出量

2013年度以降、減少傾向で推移している。(図2) また、排出量の多い業種(製造業、建設業、電気・水道業及び農業、林業)の排出量は図3のとおりであり、業種により推移が異なる。2012年度から2013年度に県調査値が減少したのに対し本システム値が微増となったのは、建設業と電気・水道業の排出量が増加したことを反映している。

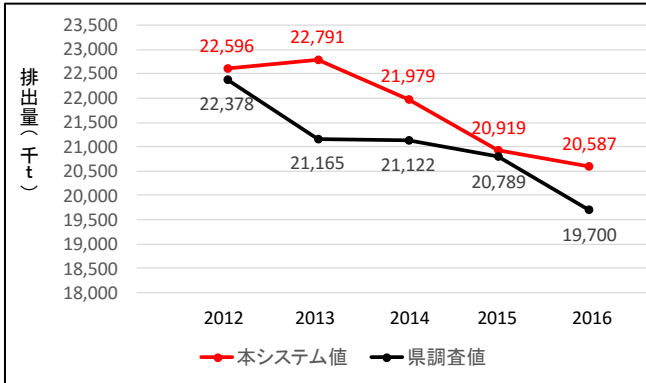


図2 2012～2016年度の産業廃棄物排出量の推移

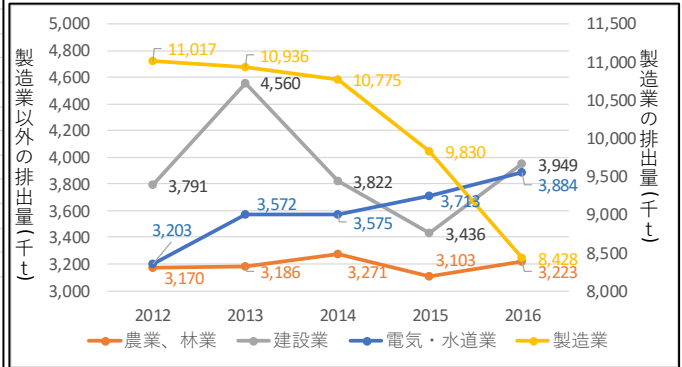


図3 業種ごとの産業廃棄物排出量の推移

3・1・2 再生利用量及び再生利用率

再生利用量及び再生利用率とも2012年度以降、減少傾向となっている。(図4)

これは、再生利用状況が悪化したのではなく、表1に示すとおり再生利用量に占める割合が高い産業廃棄物(特に、鋳さい・ばいじん・動物のふん尿)の排出量の減少に伴い全体の再生利用量及び再生利用率が減少したことが影響している。

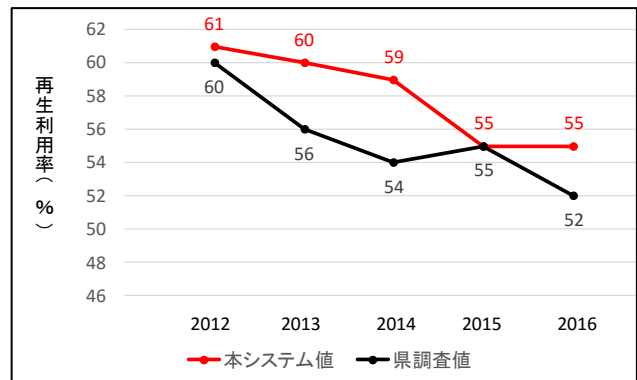
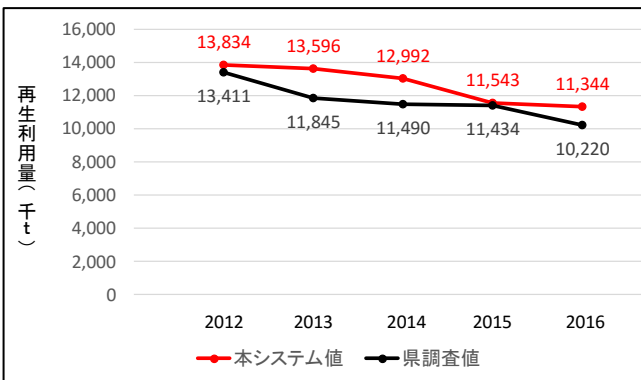


図4 2012～2016年度の産業廃棄物再生利用量と再生利用率*の推移

*再生利用率 = 再生利用量 ÷ 排出量 × 100

表 1 再生利用量に占める割合が高い5種類の産業廃棄物排出量の推移（本システム値） [単位：千 t]

	2012	2013	2014	2015	2016
金属くず	1,883	2,114	1,988	1,831	1,793
鋳さい	2,545	2,520	2,880	2,400	2,064
がれき類	2,503	3,220	2,626	2,408	2,943
ばいじん	2,421	2,485	2,444	2,345	1,908
動物のふん尿	3,167	3,183	3,265	3,096	3,217
5種類計	12,519	13,522	13,203	12,080	11,925
全体に占める割合	55.4%	59.3%	60.1%	57.8%	57.9%

3・1・3 最終処分量

最終処分量及び最終処分率とも本システム値は横ばいから増加傾向となっている。（図 5）

しかし、推計値である県調査値では、減少傾向にあり、本システム値とは異なる傾向となった。

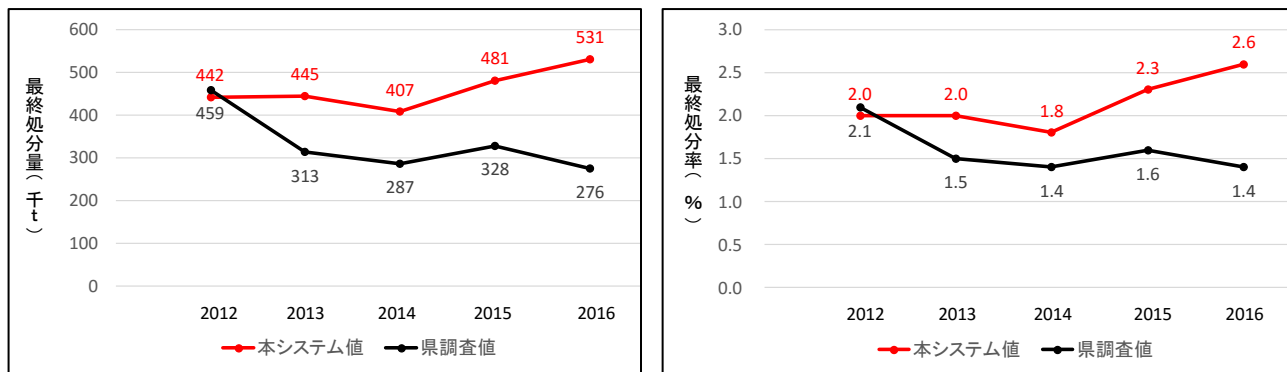


図 5 2012～2016 年度の産業廃棄物最終処分量と最終処分率*の推移

*最終処分率 = 最終処分量 ÷ 排出量 × 100

3・2 県内総生産額あたりの排出量の推移

景気変動と産業廃棄物の排出量の関係を知るため、排出量、県内総生産額⁶⁾および原単位（排出量を県内総生産額で除したもの）の推移を調べた。2012 年度を基準にした結果を整理すると以下のとおりである。

- ① 県内総生産額は 2012 年度以降、増加傾向で推移している。（図 6）
- ② 全業種でみると産業廃棄物排出量は 2013 年度以降、減少傾向で推移している。（図 6）
- ③ 全業種の排出量との推移が異なる建設業についてみると産業廃棄物排出量は 2013 年度増加、2014～2015 年度が減少、2016 年度増加となっている。（図 7）
- ④ 県内総生産額あたりの産業廃棄物排出量（図中では「原単位（廃棄物 t/100 万円 GDP）」）でみると、2012 年度以降、減少傾向で推移している。（図 7）
- ⑤ 県内総生産額の増加と連動して産業廃棄物排出量が増加していない。

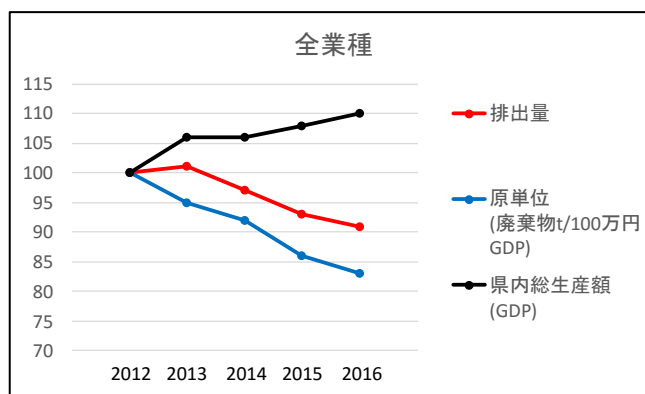


図6 排出量および県内総生産額、排出量原単位の推移（全業種）

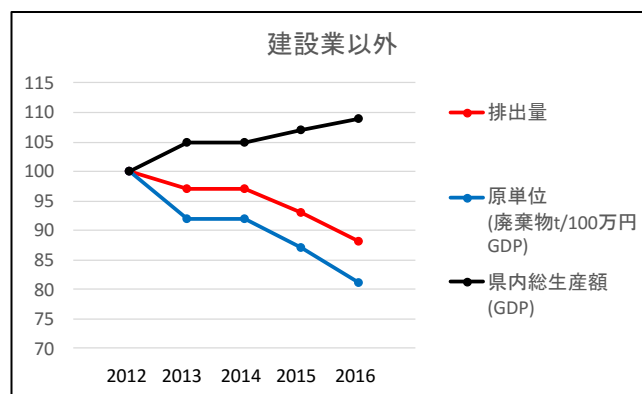
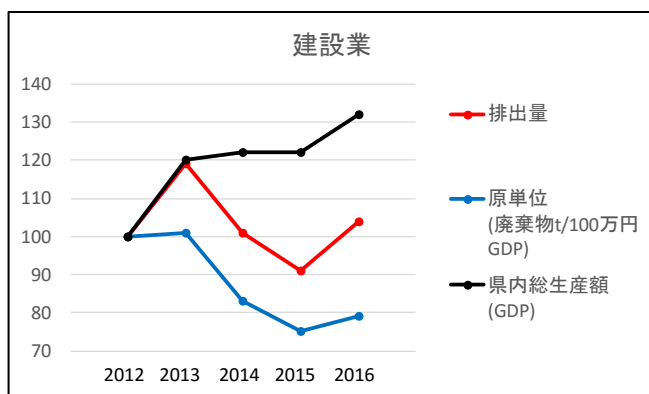


図7 排出量および県内総生産額、排出量原単位の推移（建設業と建設業以外）

4 引用文献

- 1) 大石修：産業廃棄物物流構造解析調査（H21～22年度）. 千葉県環境研究センター年報（2010）.
- 2) 大石修,立尾浩一,山田正人,遠藤和人,石垣智基：産業廃棄物フローに関する研究. 千葉県環境研究センター年報（2014）.
- 3) 大石修,立尾浩一,山田正人,遠藤和人,石垣智基：産業廃棄物処理実態解析調査. 千葉県環境研究センター年報（2015）.
- 4) 大石修,立尾浩一,山田正人,遠藤和人,石垣智基：産業廃棄物処理実態解析調査（2016年度実績）. 千葉県環境研究センター年報（2019）.
- 5) 千葉県環境生活部：平成29年度産業廃棄物処理実態調査事業報告書. 38p, 42p.（2018年3月）.
- 6) 千葉県総合企画部統計課統計分析班：平成27年度県民経済計算について.

<https://www.pref.chiba.lg.jp/toukei/toukeidata/kenminkeizai/h27/h27nenpou.html>（2019年3月時点）.

<https://www.pref.chiba.lg.jp/forms/toukei/kenminkeizai.html>（2019年3月時点）.